



# 友達になろう

## BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー
- 第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫
- 副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三
- 副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行
- 副SAA——清水 良一
- 例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477
- FAX 32-7095

**出席者会員数** 会員 79名中 56名

**先々週出席率** 89.04% (前年同期 89.47%)

**先週のメイクアップ**

1/30 三条南へ 関本哲秀さん、菊池 渉さん、船越正夫さん、渋谷健一さん、上木六治さん、佐久間勝敏さん、加藤紋次郎さん、外山雅也さん、熊倉昌平さん、渋谷正一さん、渡辺喜彦さん、林 光輝さん、斎藤弘文さん

1/31 三条北へ 吉井俊介さん

**会長挨拶** 高橋(一)会長

小越さん、1ヶ月の入院生活お疲れ様でした。また、退院おめでとうございます。

私は、いつも6時頃起床します。テレビを付けますと毎日どこのチャンネルも地震関係の報道なのですが、12チャンネルで数学の確率の問題をやっておりました。私は数学が好きで、眠りにつくときによく数学的なことを考えたりします。そこで、確率の問題です。

「50人の生徒がいる教室で、同じ誕生日の生徒は何組くらいいるでしょうか？ ①50人の1クラスに1組くらい ②2クラスに1組くらい ③10クラスに1組以下」私も初めはそんなにはないだろうと思ったのですが、計算していくと何と97%の確率で同じ誕生日の生徒がいることになるのだそうです。そういえば、当クラブも79人の会員で7組も誕生日が一緒の方がおられます。本日は、頭の体操でした。

ところで、今回の地震で思ったのですが、売掛金、買掛金など帳簿類が全て消失してしまった場合、あとはどうなるのでしょうか？どなたか専門家の卓話が近々に聞ければ、と思います。

ニコニコBOX ￥7,000

2月1日分

- 高橋(一)さん 米国旅行を楽しんできました。
- 石橋さん 副SAAの清水さんごくろう様です。
- 清水さん 平原SAA休会のため久しぶりのSAA仕事です。よろしくお願いいたします。
- 金澤さん 都合により早退させていただきます。
- 小越さん 今年初めての例会出席です。今程御見舞いをいただきありがとうございます。
- 佐藤(武)さん 小越さんのお元気な姿にお会いし、喜んでおります。
- 荻野さん 小越さん、卓話ご苦労様です。腰に気をつけてお話し下さい。

卓話 業務用厨房業界の紹介とその展望

小越憲泰会員

厨房器具と申しますと、一般家庭で使われているナイフ、フォーク、スプーン、包丁、鍋等の調理器具であります。私共はプロの調理士、板前、コックさんが使用する本格的な調理器具や大量調理する機械類を総じて業務用厨房器具と呼んでおります。

日本で業務用厨房業界が世間に多少なりとも認められるようになったのは戦後であり、特に昭和39年の東京オリンピックの為にホテル、旅館等の宿泊施設の建設ラッシュ以後の浅い歴史である為、三条に於いて馴染みのない業種であります。

そして厨房業界は外食産業の伸びと平行して成長してまいりました。昭和45年頃から外食業が産業化(チェーン化)の道を歩み始めて25年程経ちました。バブル期迄には幾つか



の景気の波があったものの、外食産業は常に右肩上がり、順調に伸びてまいりました。それがバブルの崩壊で景気の波に洗われて大分低迷しましたが、昨年になって若干上向きになりかけて来た様に思われます。

業務用厨房業界は一部の商品(例えば、業務用冷蔵庫、製氷機、洗浄機、ガスレンジ等)を除いて、受注生産であり、しかも単品生産である為、会社の大小を問わず在庫が少なく、生産性の上がない業種であります。その為、大手資本が参入しづらい、透き間産業でもあります。それ故、急激な成長を望めない処が欠点でもあります。外食産業を通して、業務用厨房業界のこれからの展望をかいま見ると、決して悲観的でなく、割合楽観的な見通しが成り立つのではないかと思います。

今迄はそれこそ右肩上がり、来た外食産業にも、バブル崩壊による影響が出て来ております。ファーストフード、ファミリーレストラン等が競って価格を下げ始めました。それに伴って人件費の削減、設備投資、機械器具の新規導入の見直し、設備更新の引き延ばし等も行われ、又ホテルや複合施設といった建設も足踏みしたという状態であり、そういう点で、私共の業界の需要減が多少出て来ていることは事実であります。

しかし、近年女性の社会進出が増えると共に、社会全体の余暇時間の大幅増大等で外食する傾向が確実に増えて来ております。現実、新潟県は4年程前迄は外食する率は全国でブービーでしたが、2年前には後から4番目と、僅かではありますが外食する頻度が上昇しております。

又地方自治体においても、これからの高齢化福祉対策としてデイサービス、ケアホーム、特別養護老人施設等の建設が盛んに計画され、そしてそれが為、政者の選挙公約の目玉ともなっております。それらの施設には必ず給食設備が付随しております。

このような自分本位な見方がまかり通る程世間は甘くありませんが、ひいき目に見ても、ゆるやかではありますが、これからも外食産業、厨房業界の成長が望めるのではないかと淡い思いを巡らせながらも、現実の厳しい環境下でやり繰りに振り回されている現況であります。

